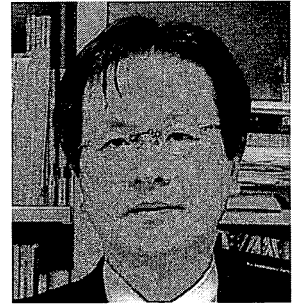


# 日本教育大学協会 全国美術部門 会報 No.47

編集・発行 全国美術部門広報室  
代 表 増田金吾 (東京学芸大学)  
総務局長 芳賀正之 (静岡大学)  
事 務 部 佐藤聡史 〒389-0406 長野県東御市八重原 2912  
TEL: 090-2560-5998/FAX:0268-61-6162  
E-mail: daibibumon@po15.ueda.ne.jp  
事務支局 〒602-804 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町  
146 番地 中西印刷株式会社 学会部内  
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662  
E-mail: art-bumon@nacocos.com

## 『美術部門代表就任のご挨拶』

全国美術部門代表 増田 金吾(東京学芸大学)



この度、「日本教育大学協会全国美術部門」代表に就任しました増田金吾です。大嶋彰前代表の後を継いで、「本協会関係大学における美術教育の進歩発展を図ることを目的とする」(美術部門規程)ことを実行するために、日本教育大学協会(以下、教大協)全国美術部門を、会員の皆様と共に、また本部門の研究組織として出発した大学美術教育学会とも適度な距離を取りつつ協力し、より充実した組織を構築して行きたいと思っております。

大学は、文部科学省から中期目標・中期計画、ミッションの再定義を提案され、それに数値を伴うエビデンスが求められて、その数値目標達成のために先生達は大学から檄を飛ばされています。一方、教員養成系大学や教員養成学部は、教員を送り出す上で今後ますます量的縮小を図りつつ、質的向上を図らねばならないという厳しい状況にあります。

こうした中で、教大協美術部門の果たすべき役割は大きく、美術教育(とりわけ美術科教育)がいかに重要で、また我が国の教育振興に貢献しているかを説明しなければなりません。そして、美術教育の実践にいかなる方法がベストであるかを考える必要があります。その一例が、特別課題検討委員会がまとめつつある教科内容学の検討です。検討委員会の委員は、ここで論議されて来たことがらを全部門員に伝え、また部門の会員はそれを受けて様々な場面で活用して行く必要があらうかと思っております。

ところで、教大協は、ここ5年間に12件もの要望書を文部科学省に提出しています。それは、教

大協のホームページや会報等で見るができます。また、美術部門も教大協に要望書を提出しています。ここ5年間で3回、平成24年1月に「中学校美術科担当専任教諭の適正配置に関する要望書」と題して提出し、その後も、同じ内容ですが、24年12月、25年12月と出しています。これだけ提出しているにもかかわらず、実効性は明確ではありませんが、行方を注視しつつ、今後も活動は続けて行くべきだと私は思います。会員の皆様の声をお聞かせ頂ければ幸いです。

これらの様々な活動を円滑に行って行く上で、「事務局(総務局)」が重要な役割を果たします。長い間、部門委員長所属大学に事務局が置かれてきました。しかし、大学教員の任務の多様化・大量化に伴い、その継続が困難となり、平成20年、2期目の橋本光明委員長就任時に、委員長所属以外の大学に総務局長を置き、かついくつかの大学の総務部委員(当時)に事務を分散化する制度が発足しました。その後、藤江充代表(この時、委員長の名称は代表と改称される)、大嶋代表へと引き継がれましたが、大学教員の勤務校での事務負担増、民間事務員一人への集中化に伴う過重性等が問題となり、大嶋代表は事務の一部を会社に委託するアウトソーシングという形を提案、実行されました。今後は、この体制を軌道に乗せ、更に円滑な部門運営を図って行かねばなりません。

会員の皆様のご支援とご協力をお願いしつつ、就任のご挨拶といたします。

## 平成26年度役員・各種委員会委員一覧

■代表 増田金吾 (東京学芸大学 26-27)

■副代表

(正) 岩村伸一 (京都教育大学 25-26)

(副) 福本謹一 (兵庫教育大学 26-27)

■特別委員 大嶋 彰 (滋賀大学 26)

山口喜雄 (宇都宮大学 26)

■総務局

総務局長 芳賀正之 (静岡大学 26-27)

部門部長 新野貴則 (山梨大学 26-27)

総務局理事

郡司明子 (群馬大学 25-26)

松尾大介 (上越教育大学 25-26)

喜多村徹雄 (群馬大学 26-27)

石上城行 (埼玉大学 26-27)

相田隆司 (東京学芸大学 26-27)

畠山智宏 (清和大学短期大学部  
26-27)

■学会大会運営委員

宮崎光二 (福井大学 25-26)

渡辺邦夫 (横浜国立大学 26-27)

■監事 西村俊夫 (上越教育大学 25-26)

小澤基弘 (埼玉大学 24-26)

■事務部 佐藤聡史 (民間 21-26)

■地区全国委員

I [北海道]

坂卷正美 (北海道教育大学岩見沢校 25-26)

佐藤昌彦 (北海道教育大学札幌校 26-27)

[東北]

蝦名敦子 (弘前大学 25-26)

煤孫康二 (岩手大学 26-27)

II [関東]

松島さくら子 (宇都宮大学 25-26)

茂木一司 (群馬大学 26-27)

III [北陸]

隅 敦 (富山大学 25-26)

阿部靖子 (上越教育大学 26-27)

[東海]

松本昭彦 (愛知教育大学 25-26)

山本政幸 (岐阜大学 26-27)

IV [近畿]

岩村伸一 (京都教育大学 25-26)

世ノ一善生 (滋賀大学 26-27)

[四国]

福井一真 (愛媛大学 25-26)

金子宜正 (高知大学 26-27)

V [中国]

新井知生 (島根大学 25-26)

福田隆真 (山口大学 26-27)

[九州]

栗山裕至 (佐賀大学 25-26)

佐藤敬助 (長崎大学 26-27)

■学校美術教育支援委員会

(略称「学校支援委員会」)

委員長 (全国美術部門代表代理・兼務)

山口喜雄 (宇都宮大学 26-27)

○附属学校部会

部会長 佐藤昌彦 (北海道教育大学 26-27)

副部会長 伊藤文彦 (静岡大学 26-27)

委員 片野 一 (福島大学 26-27)

委員 遠藤敏明 (秋田大学 25-26)

○学校教育支援部会

部会長 天形 健 (福島大学 26-27)

副部会長 柳沼宏寿 (新潟大学 26-27)

■特別課題検討委員会 (H26年度 11名)

委員長 小澤基弘 (埼玉大学 26)

委員 石井壽郎 (東京学芸大学 26)

石上城行 (埼玉大学 26)

大泉義一 (横浜国立大学 26)

喜多村徹雄 (群馬大学 26)

郡司明子 (群馬大学 26)

齋江貴志 (群馬大学 26)

神野真吾 (千葉大学 26)

高須賀昌志 (埼玉大学 26)

林耕史 (群馬大学 26)

西村俊夫 (上越教育大学 26)

西村德行 (東京学芸大学 26)

■大学造形教育連絡協議会

<全造連大会開催地区大学及び近隣地区

代表委員> (H26年度 5名)

委員長 山口喜雄 (宇都宮大学 26-27)

※部門代表代理

副委員長 天形健 (福島大学 26-27)

総務局 新野貴則 (山梨大学 25-26)

委員 井坂健一郎 (山梨大学 25-26)

## 平成25年度 事業報告

## 平成26年度 事業計画(案)

|                      |   |
|----------------------|---|
| 4月1日(日)              | 日本教育大学協会への事業報告<br>(H24.12-H25.3事業分)   |
| 5月31日(土)             | H24 論文集『日本教育大学協会研究年報』査読候補者推薦  |
| 6月9日(日)              | 部門運営委員会<br>(オフィス東京会議室)  |
| 6月中旬                 | 全国美術部門協議会・総会ほか日程、<br>「京都大会案内(第2次)」発送<br>平成24年度会計監査<br>(増田監事・小澤監事)   |
| 9月10日(火)             | 「部門会報・45号」、「京都大会案内<br>(最終)」   |
| 9月15日(日)             | 部門運営委員会(東京学芸大学)   |
| 10月11日(金)            | 拡大総務局会・拡大理事会(役員・委員<br>長出席)・第1回全国美術部門役員<br>会、各種委員会(全造連大学委員会:<br>全美協との合同協議<br>※H20以降、附属学校委員会、特別課<br>題検討委員会)(京都教育大学) |
| 10月12日(土)            | 全国美術部門「京都大会」開催(京都<br>教育大学)、部門総会、部門協議会   |
| 10月13日(日)            | 午後、次期開催大学への引継ぎ(次期<br>開催大学-京都教育大学)   |
| 11月28日(木)<br>~29日(金) | 第66回全国造形教育研究大会2013/<br>東京大会   |
| 12月2日(月)             | 日本教育大学協会への事業実績報告<br>(H25.4-12事業分)   |
| (平成26年)              |   |
| 1月24日(金)             | 日本教育大学協会全国研究部門連絡<br>協議会(東京学芸大学本部)   |
| 1月25日(土)             | 部門運営委員会(東京学芸大学)   |
| 3月15日(土)             | 拡大総務局会・拡大理事会(役員・委員<br>長出席)<br>第2回全国美術部門役員会、各種委員<br>会(TKP 東京・京橋)   |
| 3月中旬                 | 「部門会報・第46号(大会予告)<br>発行・郵送<br>(4月1日)<br>日本教育大学協会への事業報告<br>(H25.12-H25.3事業分)  |

|                      |  |
|----------------------|--|
| 5月31日(土)             | H26 論文集『日本教育大学協会研究年<br>報』査読候補者推薦   |
| 6月22日(日)             | 第1回 運営委員会<br>(静岡/パルシェ7F・会議室)   |
| 6月下旬                 | 「福井大会案内(第1次)」研究発表<br>(口頭)・投稿論文登録の「申込案内」<br>「福井大会案内(2次/最終)」                                   |
| 8月18日(月)             | 造形芸術教育協議会関係(三学会連携<br>協議)   |
| 9月10日(水)             | 「部門会報・46号」、「福井大会案内<br>(最終)」  |
| 9月中旬                 | 平成25年度会計監査<br>(西村監事・小澤監事)  |
| 9月21日(日)             | 第2回 運営委員会<br>(静岡/パルシェ7F・会議室)   |
| 10月3日(金)             | 拡大総務局会・第1回拡大理事会(役<br>員・委員長出席)・第1回全国美術部<br>門役員会、各種委員会(全造連大学委<br>員会:全美協との合同協議)                 |
| 10月4日(土)             | 第53回大学美術教育学会「福井大会」<br>開催式(福井大学)、学会総会、研究<br>発表(口頭)、学会・部門合同懇親会                                 |
| 10月5日(日)             | シンポジウム、ポスター発表・ポスタ<br>ー展示、研究発表(口頭)、閉会式、<br>大会開催大学引継ぎ(次期開催大学-<br>横浜国立大学)                       |
| 10月30日(木)<br>~31日(金) | 第66回全国造形教育研究大会2014/<br>山梨大会  |
| 12月1日(月)             | 日本教育大学協会への事業実績報告<br>(H26.4-12事業分)  |
| (平成27年)              |  |
| 1月23日(金)             | 日本教育大学協会全国研究部門連絡<br>協議会(東京学芸大学本部)  |
| 1月24日(土)             | 部門運営委員会(東京学芸大学)  |
| 3月中旬                 | 拡大総務局会・第2回拡大理事会(役<br>員・委員長出席)・第2回全国美術部<br>門役員会、各種委員会(場所 未定)<br>次年度 組織・運営に関する執行部・<br>各役員の引き継ぎ |
| 3月末日                 | 「部門会報・第47号(横浜大会予告)<br>発行・郵送  |
| 4月                   | 日本教育大学協会への事業報告<br>(H26.12-H27.3事業分)  |

# 第 53 回 大学美術教育学会 福井大会 大会日程

## 平成 26 年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会・総会

平成 26 年度日本教育大学協会全国美術部門協議会並びに、第 53 回大学美術教育学会（福井大会）を福井大学で開催いたします。これまでの美術教育を真摯に振り返りつつ、これからの美術教育の活路について積極的な教育研究・協議がなされる大会にしたいと思っています。全国美術部門協議会の参加及び学会の研究発表・大会参加のほど、よろしくお願い申し上げます。

- 大会テーマ 「教えること・育てることー美術教育の原点を問い直す」
- 内 容 企画行事、研究発表、総会、懇親会など
- 企画・運営 福井大会実行委員会
- 主 催 日本教育大学協会全国美術部門、大学美術教育学会
- 後 援 福井県教育委員会、福井市教育委員会

1. 日 時：2014 年 10 月 4 日（土）・5 日（日） 全国大会及び総会ほか  
※10 月 3 日（金）大会前日諸会議

2. 会 場：福井大学（文京キャンパス） 〒910-850 福井県福井市文京 3 丁目 9-1  
総合研究棟 I、総合研究棟 V（教育系 1 号館）

3. 参加費：会員・一般 事前申込：4,000 円 当日申込：5,000 円  
院生・学生 事前申込：2,000 円 当日申込：3,000 円 ※現職教員含む。  
懇親会：3,500 円（会場：福井大学文京キャンパス食堂【味菜】）

### 4. 申込方法

福井大会の参加及び発表申込については、オンライン大会登録受付システムを使って行います。参加申込は当日でも可能です。

### 5. 問い合わせ先

#### ■オンライン登録システムに関する問い合わせ

中西印刷 大会システムサポートデスク  
（参加申込・発表申込・概要集）

Tel 075-415-3661 E-mail: uaesj53@nacos.com

#### ■大会に関する問い合わせ

教大協全国美術部門・大学美術教育学会  
福井大会実行委員会委員長 宮崎光二

Tel & Fax: 0776-27-8702 E-mail: kmiyazak@f-edu.u-fukui.ac.jp

#### ■大学美術教育学会 学会総務（総務局長：芳賀正之）

事務部長：佐藤聡史 〒389-0406 長野県東御市八重原 2912

E-mail: daibibumon(at)po15.ueda.ne.jp

**【大会前日の諸会議】 平成26年10月3日（金） 各委員会、役員会**

**総合研究棟V（教育系1号館）【会場は当日掲示】**

|                                  |  |   |                           |
|----------------------------------|--|---|---------------------------|
| 13:00-13:30                      | 拡大総務局会議【正副理事長・正副代表・総務局院・事務部員】 ※大会議室                                      |   |                           |
| 13:30-14:20                      | 全造連大学委員会【部門委員会委員】<br>※全国大学造形美術教育連絡協議会<br>(年1回の美術部門全造連大学委員と全美協の懇談会) ※多目的室 |   |                           |
| 14:20-15:20<br>※審議延長<br>17:00まで可 | 【部門委員会委員】<br>全国学校美術教育支援委員会<br>・附属学校部会<br>・学校教育支援部会 ※1階演習室等               | 【学会委員会委員】<br>国際交流会<br>学会誌委員会<br>※1階演習室等 | 【私学】<br>全美協役員会<br>※1階演習室等 |
| 15:10-15:30                      | 受付【学会・部門共通】 ※大会議室  |   |                           |
| 15:30-16:30                      | 拡大理事会【学会理事役員＋部門委員役員（共通審議事項を含む）】 ※大会議室                                    |   |                           |
| 16:30-17:10                      | 美術部門協議役員会【部門委員役員】 ※大会議室（多目的室）  |   |                           |

**第1日目**

**平成26年10月4日（土） 総合研究棟V（教育系1号館）**

|                                    |  |                        |
|------------------------------------|--|------------------------|
| <b>9:00- 学会・部門受付（教育系1号館 1階ロビー）</b> |  |                        |
| 9:30-10:00                         | 平成26年度 日本教育大学協会全国美術部門 開会式<br>第53回 大学美術教育学会全国大会 開会式 | 2階 大1講義室               |
| 10:00-11:25                        | 日本教育大学協会全国美術部門 協議会<br>※日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会合同   |                        |
| 11:30-12:00                        | 口頭発表   | 1階 11・12・13・14・101・102 |
| 12:00-13:00                        | 昼休憩 <b>※学食あり</b>                                   | 福井大学食堂【味菜】             |
| 13:00-16:30                        | 口頭発表   | 1階 11・12・13・14・101・102 |
|                                    | 全国学生会議   | 2階 205                 |
| 16:30-17:30                        | 日本教育大学協会全国美術部門総会<br>大学美術教育学会総会                     | 2階 大1講義室               |
|                                    | 全国大学造形美術教育教員養成協議会総会                                | 2階 大2講義室               |
| 18:00-20:00                        | 懇親会  | 福井大学食堂【味菜】             |

**第2日目**

**平成26年10月5日（日） 午前：総合研究棟I 午後：総合研究棟V（教育系1号館）**

|                                    |                                  |                        |
|------------------------------------|----------------------------------|------------------------|
| <b>9:00- 学会・部門受付（教育系1号館 1階ロビー）</b> |                                  |                        |
| 9:30-12:30                         | 学会フォーラム<br><美術・遊び・大人>⇔世界（共同体）    | 総合研究棟I<br>13階          |
| 12:30-13:30                        | 昼休憩 <b>※学食なし</b>                 |                        |
| 13:30-13:55                        | ポスターセッション（ポスター発表・ポスター展示）         | 1階・2階 通路               |
| 14:00-15:30                        | 研究発表IV                           | 1階 11・12・13・14 101・102 |
| 15:30-                             | 引き継ぎ（大会運営理事 H26 福井大学・H27 横浜国立大学） | 1階 大会議室                |

# 第1日目 研究発表

|                     | 会場1 (11 教室)  | 会場2 (12 教室)   | 会場3 (13 教室)   | 会場4 (14 教室)  | 会場5 (101 教室)                                      |
|---------------------|--|---|---|--|---|
| 11:30<br>①<br>11:55 | 読解ベースの西洋絵画鑑賞の一提案 リュバン・ポージャン「チェス盤のある静物(五感の寓意)」の三層の読み取り<br>岡田匡史 (信州大学)   | 幼児期における造形活動から図画工作学習発展に関する検討<br>金子優人 (宇都宮大学大学院)  | 教育環境におけるデジタルメディアの現状と課題ー韓国・欧米のデジタルメディアの利活用状況調査からー<br>安東恭一 (香川大学)<br>金政孝 (香韓国教育課程評価院) | 絵が描けない児童・生徒のための「恥」の考察<br>島田翔平 (埼玉大学大学院)                        | 「工芸的造形」と「造形遊び」に見られる近似性<br>隼瀬大輔 (滋賀大学)             |
| 13:00<br>②<br>13:25 | 美術教育はどうしたらいいのか? アート・多文化・伝統・身体・メディアによる協同と表現のワークショップの視点から<br>茂木一司(群馬大学)  | スペインと日本の初等美術教育の比較(1)ー描画指導に関わる題材の分析を中心としてー<br>網谷夏実 (富山大学)<br>隅敦 (富山大学)                                       | 協同的な学び論の検討IVー「協同的創造」のための学習環境デザインのための検討と実践ー<br>手塚千尋 (東京福祉大学短期大学)                     | 芸術学会機関誌『スクールアート』(1949年創刊)と次世代ものづくり教育カリキュラム構想<br>佐藤昌彦 (北海道教育大学) | 「造形遊び」における新聞紙の使い方の研究<br>村上真理(福岡教育大学大学院)           |
| 13:30<br>③<br>13:55 | こどもの集団的な造形活動における技能の伝搬過程に関する研究(1)ー他者への眼差し行為に着目した相互作用の分析ー<br>武田信吾 (鳥取大学)                                       | 絵画をめぐる今日の問題についてー「現代」と対峙する日本画ー<br>寛有子 (京都嵯峨芸術大学短期大学部)  | 子どもの造形的な活動の相互行為分析による臨床的研究のための基礎的考察ー小・中学校と大学研究チームの相互連携プログラムの構想のためにー<br>秋山敏行 (愛媛大学)   | 図画工作・美術科への〔苦手意識〕の研究Iー造形美術教育を質的に改善するためにー<br>降旗孝 (山形大学)          | 会場6<br>(205 教室)<br><br>全<br>国<br>学<br>生<br>会<br>議 |
| 14:00<br>④<br>14:25 | 教員養成学部の絵画教育における省察的実践についての研究IVー他者評価による授業実践の効果の検討ー<br>横地早和子(東京未来大学)<br>八桁健(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)<br>小澤基弘 (埼玉大学) | 生きづらさを抱える「わたし」が解き放たれる美術表現ー障害のある人の表現活動に関する実践を通してー<br>安藤郁子 (兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科・秋田公立美術大学)<br>高石次郎 (上越教育大学大学院) | 乳幼児の感性育成に着目した絵本の研究ー母と子が優しさを共有する視点からー<br>保田恵莉 (講談社フェーマススクールズこどものアトリエ・ばら園園長(花園大学))    | 平面メディアのフレームに関する考察<br>福地英臣(福岡教育大学大学院)                           |   |
| 14:30<br>⑤<br>14:55 | 教員養成学部の絵画授業における SNS 利用の可能性とその効果についての実践的考察<br>小澤基弘 (埼玉大学)<br>八桁健(東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科)<br>有原穂波(埼玉大学大学院)        | ポイエーシス (芸術実践) と教育の結節点を探るー「滋賀次世代文化芸術センター」の取り組みからー<br>大谷祥子 (滋賀大学大学院)<br>大嶋彰 (滋賀大学)                            | 環境と相互作用して展開する子どもの造形表現行為ー4,5 歳児を対象としたジョイントマップを使用した活動からー<br>村田透 (大阪大谷大学)              | 身近にある川をテーマとした作品制作について<br>吉村弥生 (福岡教育大学大学院)                      |   |

## 第1日目 研究発表

|                     | 会場1 (11 教室)  | 会場2 (12 教室)   | 会場3 (13 教室)   | 会場4 (14 教室)   | 会場5 (101 教室)  |
|---------------------|--|---|---|---|---|
| 15:00<br>⑥<br>15:25 | 院内学級の実践から読み解く美術教育の意義と可能性<br><br>南雲まき (東京学芸大学)                        | 山口正樹のアイデアスケッチに関する一考察<br><br>八重樫良二 (北海道教育大学)                             | スペインの美術教育における評価についての研究<br><br>パストル・マタモロス・ソフィア (富山大学)<br><br>隅敦 (富山大学) | 自己実現を可能にする子どもを育てる図画工作科の指導法—形成的アセスメントに着目して—<br><br>村瀬つむぎ (広島大学大学院) | 図画工作科における「つくりたいものをつくる」活動に関する研究<br><br>福井一真 (愛媛大学)                         |
| 15:30<br>⑦<br>15:55 | 美術科授業開き論—学年最初の授業の構造—<br><br>有田洋子 (島根大学)                              | カンボジア版「自由画教育運動」への期待—JHPと共同で推進した美術教育拡充に向けた取組の成果と課題—<br><br>鈴木光男 (東京未来大学) | モンゴル民族の伝統的家庭教育の衰退と内モンゴル美術教育の課題<br><br>格根薩仁 (新潟大学大学院)                  | 3D CAD を応用した色彩認識の測定方法の研究<br><br>町田由徳 (岡崎女子短期大学)                   | 特別支援学校と美術大学の連携による地域特化型交流学习の取組<br><br>北島珠水 (秋田県立栗田養護学校)<br>池亀直子 (秋田公立美術大学) |
| 16:00<br>⑧<br>16:25 | フェルメール作『手紙を読む女』と『牛乳を注ぐ女』の比較鑑賞論—美的特性及び主題の感受を中心に—<br><br>立原慶一 (宮城教育大学) | 生徒と授業空間を創るということ—陶芸の実践を通して—<br><br>橋本侑佳 (同志社中学校)                         | 福永晴帆研究<br><br>松久公嗣 (福岡教育大学)   | 20世紀後半以降の美術科教科書における「国際化」題材説明文の検討<br><br>山口喜雄 (宇都宮大学)              | フレームによる立体造形の研究<br><br>寺延見奈子 (福岡教育大学大学院)                                   |

## 第2日目 研究発表

|                     |  |   |   |   |   |
|---------------------|--|---|---|---|---|
| 14:00<br>⑨<br>14:25 | 素材に基づく子どもの表現—二つの立体題材の比較考察から—<br><br>蝦名敦子 (弘前大学)      | 学習意欲を喚起する美術科学習指導法の研究—単元での自己決定場面における教育的契機の在り方—<br><br>亀井美里 (福岡教育大学大学院) | 導入的解説から《非解説的観賞教育》への架橋という教育—ヨーロッパの体験的デモ番組の刺激を再考する—<br><br>鈴木幹雄 (神戸大学)                    | フランスにおける美的教育の動向—「芸術活動の強化」から「芸術・文化教育構想」へ—<br><br>小笠原文 (広島文化学園大学)   | 画塾彰技堂の講義録『布置経営』と画学類纂『絵事三要—布置法』との関係について—英語原書を元にした比較による—<br><br>重村幹夫 (仁愛女子短期大学) |
| 14:30<br>⑩<br>14:55 | 多主体間協働でつなぐ美術教育～COC 事業地域志向研究～<br><br>北沢昌代 (聖徳大学短期大学部) | 米国における視覚芸術教育の新しいナショナル・スタンダードの検討<br><br>中村和世 (広島大学)                    | 造形表現行為の根拠としての〈場〉に関する研究<br><br>三益美千郎 (珠洲市立飯田小学校・兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科)<br>松本健義 (上越教育大学大学院) | アール・ブリュットが内包する「プリミティブであること」の意味の変化とそのルーツの考察<br><br>新井馨 (大阪教育大学大学院) | 中学生の美術科に関する課題価値についてII—性差及び学年の発達段階の傾向から—<br><br>花輪大輔 (北海道教育大学)                 |

|       |                   |   |                        |  |   |
|-------|-------------------|---|------------------------|--|---|
| 15:00 | ランドスケープを読み解くための方法 | 台湾の美術教育における主体性から“台湾のアイデンティティ”への思考—その背景— | 明治後期の幼稚園における図画教具に関する研究 | 図画工作科における地域ブランドの教材化の研究—地域ブランドの教材化への構想— | スペインにおけるCLILを導入した美術教育の研究—英語版図工教科書と指導書の内容を中心に— |
| ⑪     | 谷川咲 (福岡教育大学大学院)   | 林筱蓉 (上越教育大学)                            | 牧野由理 (城西国際大学)          | 橋本忠和 (北海道教育大学)                         | 藤井康子 (大分大学)                                   |
| 15:25 |                   |   |                        |  |   |

## ◎フォーラム概要

### 2014 大学美術教育学会 福井大会フォーラムテーマ 「美術・遊び・大人⇄世界(共同体)」

「かすかな光へ—大田堯 生命のきずなへの道程」(監督:森康行)これは、戦前戦後を通して、人間の生に根差した教育の在り方を問い続けてきた教育哲学者「大田堯」のドキュメンタリー映画である。福井大会のフォーラムでは、スクリーンに映し出される大田堯の思索と実践と向き合うことから、フォーラムという広場をつくり出していきたい。そして、ドキュメンタリー映画の感想を互いに交流させる対話から、「今、私たちが本当に向き合わねばならない課題とは何か」といったヴィジョンへと変容する「問い」を参加一人一人の中に創出されることを期待したい。

「美術教育」という言葉を基本的な要素に分解してみると、「美術」、「教える」、「育つ」という3つの言葉が導き出されるが、これらが最終的に目標とするところは、端的に「世界(共同体)」への参画・参入にあると考える。美術の表現行為とそれを取り巻く様々な現象は、この為の独特な方法であると捉える視点をまずおいてみたい。そして、その為の媒体や触媒として、特に「遊び」という考え方をここに加えてみたい。

「遊び」には様々な意味が含まれるが、先ず自由な発想が自在に動き始める無色の場所を想像している。議論があらかじめなんらかの色に染められているところで、いくら表面的には活発に展開したとしても、ある水準を超えることはないし、果たしてそこでいか程の成果を期待することができるだろうか。又、「遊び」には、有用であるとか、有益であるという、時に固執ともなりかねない意識から一旦距離を置くことが含意されている。いわば不真面目で無責任な態度を推奨はしないが、許容されるものとしてとらえ、常識というものを瞬間でもいいから転倒させることを、言葉は悪いが意図している。逆に言えば、今はそのようなことが真剣に必要とされる状況だとも言えるだろう。そして「遊び」が美術の本質に深くつながっていることは疑いのないことであって、「遊び」でない美術活動などはそれこそ異常な行為でしかない。更に「遊び」は「教える」と「育つ」ということとも強く関連付けられている。心や精神が他者や事物と豊かな関係性を構築するためには、その内側に隙間を保っておく必要がある。場所という誤解を招くかもしれないが、自身を能動的に動かす為の心理的空間ととらえてもいいだろう。そしてこれら複数の意味を含んだ「遊び」が「世界(共同体)」を作り上げる原動力となることを考えている。「想像する力」が働く場所であり、「創造力」が発現する舞台でもある。

さて、「世界(共同体)」のなかの一員として責任を果たすことの中には様々な側面があることが想像される。「育つ」ということの中には、とりわけ「大人」になることが必須のこととして求められるし、そのなかでの社会的義務を自問することから「世界(共同体)」に対して、一人ひとりが独自の貢献をしなければならぬ。「公共性」や「市民意識」といったことにも当然関心を持たなければならないし、それは大人としての義務でもある。この為には、個人と「世界(共同体)」が相互に相手を包摂するという構造が考察されなければならないし、そこで私達は、「美術」という営為が何であるか、又、何を成し得るかということを探らなければならない。そして、これらのことを、学校教育のなかの「美術教育」ということに留めず、教育という、より大きな枠組みからの視点を通して明らかにし、私たちが示す知見として一般に提議する義務と責任があると考えべきである。又、これに加えて、私たちは「美術」という表現そのものに対しても責任を課せられている。「美術」を学ぶうえでの基礎的な知識の獲得や、その為の修練という視点をなおざりにすることは出来ない。多くの貴重な才能が適切な助言と指導もなくあたら失われてしまったという思いを拭うことは出来ない。



ここで「教える」ということにも簡単に言及しておかなければならないだろう。一般論として「美術」を教えるという事で言えば、様々な教材の開発や、継続的な指導法の研究など、豊富な事例と共にいかにも充実しているという印象を持っている。当然「美術教育」の1つの核でありその背景でもあるが、それが冷静な批評を伴わずに、自己目的化してしまうのでは、本質を損なうことになりかねない、ここで詳細を論じることはできないが「教える」ということには、常に「教えることは可能か」という言葉を置いておかなければならない。「教える」ことの危険性を認識していなければ、そもそも「育つ」ということが危うくなってしまふ。

さて「美術教育」が置かれている状況は、とても厳しいものがあると巷間では言われているし、それを否定するものではないが、果たしてその厳しさの正確な実態は本当に理解されているのだろうか。学校教育（中・高）における「美術」の時間数の減少と美術専任教員の削減といった具体的な問題は見えているが、それを招いた複合的な原因が問われることは稀なことのように思われる、しかし、ここを1段も2段も探らなければ何も見えてこないことは明らかなことであって、逆に、危機の正確な把握から、「美術教育」の本質とその確固とした基盤を再構築する貴重な契機を見出すことが想像されてもいいのではないだろうか。そのなかで、例えば「情報」と「身体」の在り様の大変化は、顕著なこととして、根本的で緊急な課題の1つだと考えていいだろう。美術という営為がここで果たすべき役割と能力は決して軽いものではないし、社会に対して特に大きな責任が問われていることは厳に意識しておかねばならない。今の状況は、いわば期待が逸らされていることに対しての苛立ちの表れであるという事を考えていいのではないだろうか。

様々な意味で時間的な余裕がさほど残されているとは思われない。美術に携わる私たちの真摯で持続的な対話の中から、力強く可能性を持ったヴィジョンとなる「問い」が立ち上がらなければならないだろう。学校教育にとどまらず、人として生き抜くことの条理を問うてきた大田堯の思索と実践は、そんな私たちの希求に応える「問い」の創出に力を与えてくれるであろう。

#### 【フォーラムの進め方】

- ① 9:30ー 9:40 挨拶・テーマ説明 福井大会委員長 宮崎光二（福井大学教育地域科学部教授）
- ② 9:40ー11:05 ドキュメンタリー映画「かすかな光へー大田堯 生命のきずなへの道程」  
(ウッキー・プロダクション)
- ③11:05ー12:30 グループでのラウンドテーブル  
コーディネーター 富永良史（発創デザイン研究室 代表）

#### 【ドキュメンタリー映画「かすかな光へー大田堯 生命のきずなへの道程」について】

2011年 DV-CAM/4:3/84分/日本/ドキュメンタリー/カラー/ひとなるグループ

監督：森康行

音楽：林光/詩朗読：谷川俊太郎/ナレーション：山根基世/朗読：津嘉山雅種ほか

撮影：西島房江 前川光生/編集：古賀陽一/制作：ひとなるグループ

～いま、伝えたい 生命きずな～

◆戦前戦後を通して日本の社会と人間を見つめ、教育の在り方を問い続けてきた教育研究者大田堯。さまざまな生活現場に生きる人たちとふれあう中ですすめてきた大田堯の教育研究は、「教育育てる」という既成の教育感を根底から覆すものである。生きるとはどういうことか。学ぶとはどういうことか。学校の教育にとどまらず、人生を生きぬく条理を探究する。教育を通して人間を見つめ続けてきた大田堯の思索と実践の軌跡を映し出す。

◆題名の「かすかな光へ」は谷川俊太郎の同名の詩により、朗読は詩人自ら行っている。林光の音楽は、大田堯の思索と行動を伴走して、明るい。監督は、夜間中学校の記録映画「こんばんは」(2003/第1回文化庁映画賞 文化記録対象受賞/キネマ旬報ベストテン 文化映画第1位/毎日映画コンクール記録文化映画賞受賞)の森康行。編集は「ビキニの海は忘れない」(1990)、「渡り川」(1994)など、森の作品すべてにかかわってきた古賀陽一が担当した。

(作品概要・スタッフ DVDリーフレットより転載)

## ■アクセス

JR 福井駅下車 東口から徒歩1分

越前鉄道三国芦原線 福井駅で乗り換え

福井駅—福大前西福井駅 下車 (10分)

○越前鉄道三国芦原線 ダイヤ

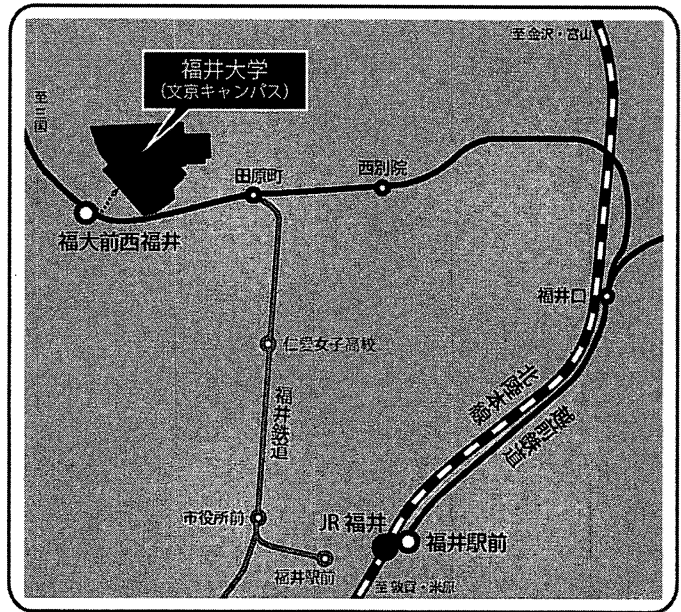
三国港方面〈福井駅発〉

|    |       |       |
|----|-------|-------|
| 6  | 17    | 51    |
| 7  | 06    | 25 52 |
| 8  | 11    | 41    |
| 9  | この間毎時 |       |
| ?  | 10    | 40    |
| 21 |       |       |

福井方面〈福大前西福井発〉

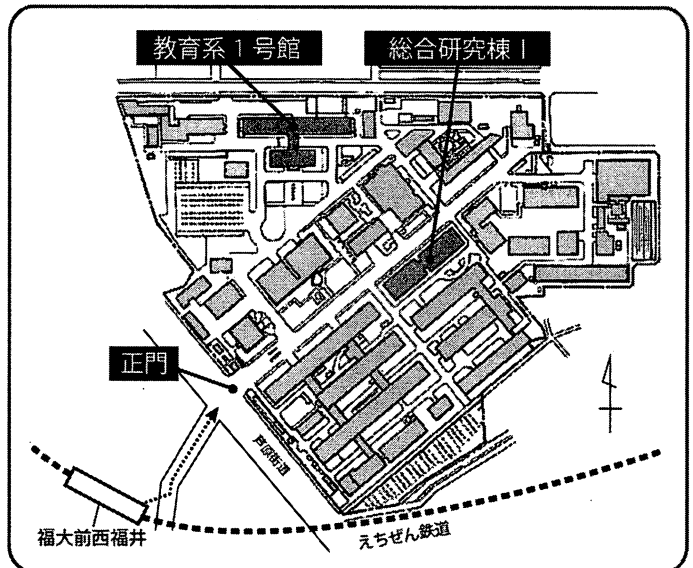
|    |       |
|----|-------|
| 10 | この間毎時 |
| ?  | 19 49 |
| 21 |       |
| 22 | 49    |

□は土休日運休

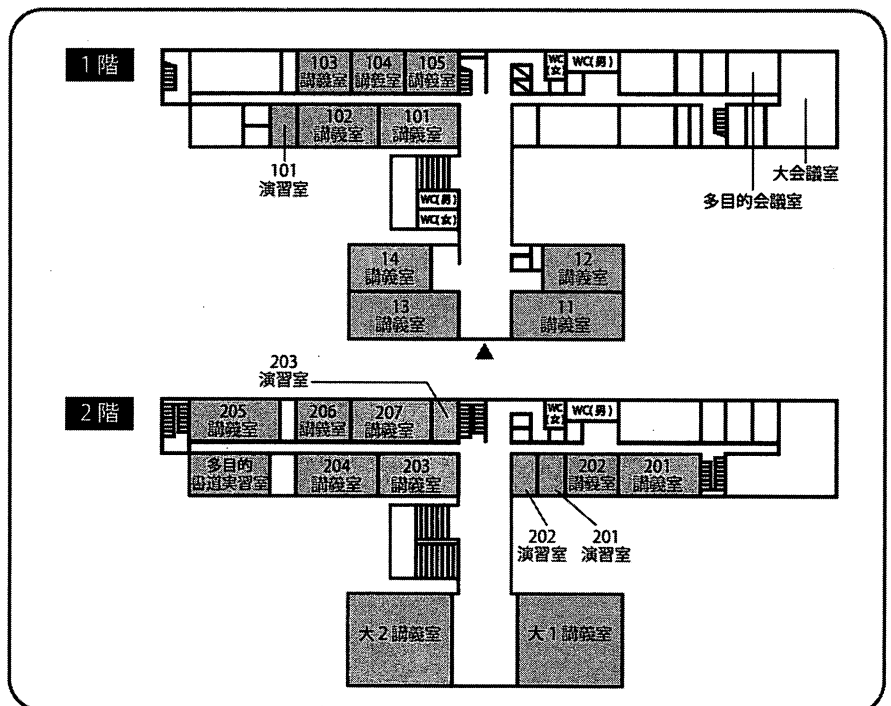


## ■福井大学 文京キャンパス 学内全体図

自家用車でお越しになる方は、入構時に受付が必要となります。正面ゲート左手前の受付所で手続きをして下さい。



## ■教室配置図 (教育系1号館)



## 全国美術部門に関するお願い

平成 26 年度全国美術部門部長  
新野貴則（山梨大学）

国立法人化以降、大学教員の任務の多様化・大量化に伴い、平成 20（2008）年度から学会・部門の管理運営の効率化を目指し、いくつかの大学に事務を分散する「総務局」を結成しました。そして、その中に事務局を設け、民間の方に会員管理等をお願いしてきました。この体制のもと、会員の先生方のご協力をいただきながら、学会・部門を運営してまいりました。そのおかげで、学会・部門はつつがなく運営することができ、美術教育にかかわる諸問題に取り組むことができたと考えております。しかし、これまで以上に事務的な作業を円滑に、かつ、確実に行う必要に迫られ、これまでの体制を見直し、さらに新たな体制に移行しつつあります。社会状況等の変化とともに学会・部門等のあり方も変えていかなければなりません。

ただ、このような運営体制の変化の影響もあり、会員の方々に対して全国美術部門と大学美術教育学会との関係、そして部門の意義や活動、存在が分かりにくくなってきました。

日本教育大学協会の中に大学の教員を中心とする集まりとして第二部会があり、昭和 27（1952）年、美術教育部会ができました。ここでは、日本の美術教育の進歩発展をはかるための活動と研究発表会活動等が行われ、昭和 38（1963）年、大学美術教育学会が誕生しました。さらに、昭和 63（1988）年の富山大会から、大学美術教育学会の会員の門戸を広げ、部門の教員のみで構成されていた学会の中に、学会のみの会員も誕生し、現在に至っております。（なお、日本教育大学協会の概要等について、資料をつけましたので、ぜひご参照ください。）

今年度からは、大学教員の勤務校での事務的作業の負担増、民間事務員一人への集中化と過重性のため、さらに、持続可能な学会・部門の運営をめざして、学会の専門会社である中西印刷にアウトソーシングし、その作業に取り組んでいる最中です。より確実に安定した学会・部門の運営をめざし、総務局が一丸となって体制を整えていきます。

会員の先生方には、学会・部会と新しい運営体制へのご理解を頂き、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 学会・部門の新ホームページ開設

平成 26 年度総務局長  
芳賀正之（静岡大学）

全国美術部門及び大学美術教育学会は、学会の専門会社である中西印刷に業務委託を行い、それに伴い、年一回の協議会・大会についても円滑に進めるために、オンライン大会登録受付システムを導入しております。国立法人化以降、各大学の教員の仕事は多忙になり、部門の協議会及び学会の大会を開催するに当たり、大きな負担になってきたこと、また、大学改組により教員養成の美術教員が減らされ、協議会・大会を引き受け、実行できる大学もあれば、かなり厳しい状況の大学もあります。その改善に向け、福井大会より中西印刷の e-naf+（オンライン大会登録受付システム）を試みております。

さて、部門と学会の新ホームページのコンテンツが決まり、工事中のページも残っておりますが、会員の皆様にとって重要なところは完成し、すでにご活用して頂いております。入会退会の手続き、大会案内・申込み、学会誌論文投稿等々、これまでとは異なる方法（オンライン化）を導入したことは、今までに無く画期的なことです。しかしながら、初年度ということもあり、様々な問題が起きることも予想されます。

今後継続していく中で、システムを運営する中西印刷側に部門・学会の大会の実態を伝えながら、互いの意見をすり合わせながら改善し取り組んでいきたいと思っております。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。また、時代とともに部門へのかかわり、さらに学会の関係が曖昧になってきおり、年一回の協議会や全国大会に対する教員の意識が薄れてきていることも、近年、検討課題として浮上してきております。その改善に向けて、現在、部門運営の立て直しを図っており（左段・「全国美術部門に関するお願い」参照）、合わせて、ご期待に添えるような新ホームページでの情報発信をめざしていきたいと思っております。

### 【総務局広報室】

芳賀正之（静岡大学）  
佐藤賢司（大阪教育大学）  
新野貴則（山梨大学）



●資料 1

## 日本教育大学協会の概要・ミッション等について

### 〈概要〉

日本教育大学協会は、大学・学部の質的向上と教育に関する学術の発達を図り、我が国の教育の振興に寄与するという協会設立の目的に沿って、教員養成の改善向上の中心的な課題として、多年にわたり事業活動を続けています。

### 〈沿革・ミッション〉

日本教育大学協会は、1949（昭和 24 年）11 月 5 日に、我が国における教育系大学・学部が相互の協力によって「大学および学部の質的向上と教育に関する学術の発達を図り、もって我が国教育の振興に寄与すること」を目的とし発足しました。

1960 年代以降の、教員養成の目的性強化（学芸大学・学部から教育大学・学部への名称変更等）の中で、教大協は教員養成系大学・学部を主な会員とした連合体へとその性格を徐々に変えてきておりますが、「大学における教員養成」原則を実際に担う機関の連合体としての組織的活動は連綿と蓄積されております。

近年、大学経営の近代化や教員の資質向上等の施策にも関わり、教員養成を行う大学のあり方が問われており、今後に向けて本協会の果たす役割は大きいものと期待されております。

#### 日本教育大学協会全国研究部門等の組織及び運営に関する規程（一部）

##### （趣旨）

第 1 条 この規程は、日本教育大学協会規約（昭和 60 年 6 月 7 日制定。以下「規約」という。）

第 31 条第 2 項の規定に基づき、日本教育大学協会全国研究部門等（以下部門という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

##### （定義）

第 2 条 部門とは、教科等別研究部門及び学校種別部門をいう。

##### （組織）

第 3 条 部門は、原則として規約第 2 条に規定する会員の大学教員及び附属学校教員等で組織し、必要に応じて、各部門が定めるところにより、それ以外の者を部門会員とすることができる。

##### （研究活動）

第 7 条 部門は、教科の研究、部門及び学校種別の諸問題等を検討するため、研究会の開催等を行うものとする。

##### （要望等の提出）

第 8 条 部門は、部門の要望等を理事会に提出することができる。

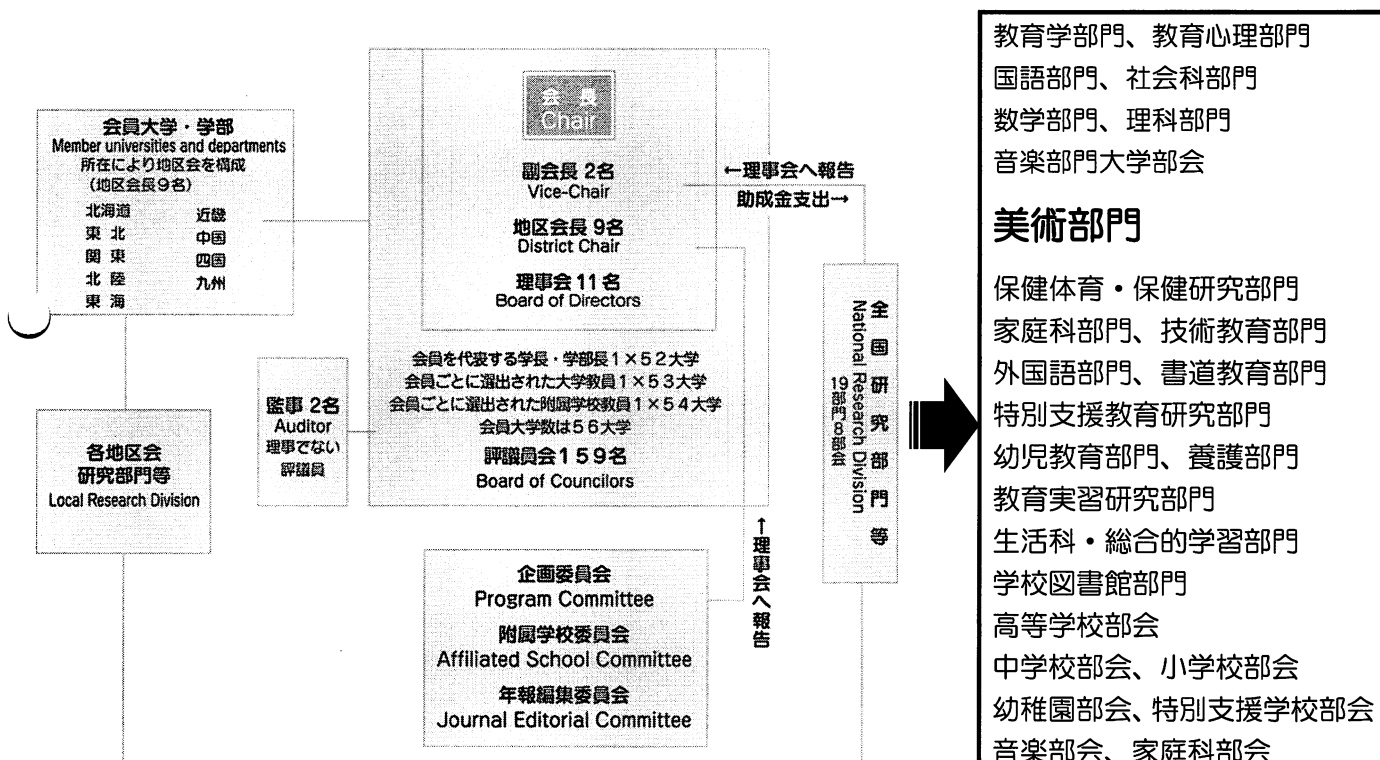
##### （地区会との連携）

第 9 条 部門の活動は、規約第 23 条第 2 項に規定する各地区会の研究部門等と密接な連携のもとに行うものとする。

## 全国美術部門の概要・活動について

### 〈組織〉

日本教育大学協会、国立大学法人のうち教育に関する学術の研究及び教育者養成を主とする大学・学部を会員として組織されています。



### ○日本教育大学協会全国美術部門について（規定の概要）

- ・本会は日本教育大学協会全国美術部門と称する。（第1条）
- ・本会は本協会関係大学における美術教育の進歩発展を図ることを目的とする。（第2条）
- ・本会は地区会を次の各地区に置く。北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中国、四国、九州。地区会の運営は、各地区の定める地区規程による。（第3条）
- ・本会は目的を達成するため、次の事業を行う。機関誌の発行、調査研究、研究協議会の開催、本協会本部及び各地区会との連絡及び協力、その他本協会の目的を達成するために必要な事業（第5条）
- ・本部門の会員は、原則として教育大学協会規約第2条に規定する会員の大学教員及び附属学校教員等で組織し、必要に応じて、本部門が定めるところにより、それ以外の者を部門会員とすることができる。ただし、教育大学協会会員大学・学部等の常勤教員であることを原則とする。会員は、部門会費を納入しなければならない。（第6条）
- ・本会の会議は総会、協議会、役員会、運営委員会、総務局会、拡大総務局会及び委員会とする。総会及び協議会は本部門の会員によって構成する。その他の会議は、別に定める日本教育大学協会全国美術部門の会議及びその構成員に関する細則に従う。総会は原則として毎年1回開催し、本会の運営に関する重要事項を協議する。（第10条）

**日本教育大学協会加盟の大学・学部に所属する教員は全国美術部門の会員です。**

日本教育大学協会所属大学・学部一覽

|   |  |
|---|--|
| <p><b>北海道</b></p> <p>1 北海道教育大学</p> <p><b>東北</b></p> <p>2 弘前大学教育学部<br/>3 岩手大学教育学部<br/>4 東北大学教育学部<br/>5 宮城教育大学<br/>6 秋田大学教育文化学部<br/>7 山形大学地域教育文化学部<br/>8 福島大学人間発達文化学類</p> <p><b>関東</b></p> <p>9 茨城大学教育学部<br/>10 筑波大学<br/>11 筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター<br/>12 宇都宮大学教育学部<br/>13 群馬大学教育学部<br/>14 埼玉大学教育学部<br/>15 千葉大学教育学部<br/>16 東京大学教育学部附属学校<br/>17 東京学芸大学<br/>18 東京芸術大学音楽学部<br/>19 お茶の水女子大学附属中学校<br/>20 横浜国立大学教育人間科学部<br/>21 山梨大学教育人間科学部</p> <p><b>北陸</b></p> <p>22 新潟大学教育学部<br/>23 上越教育大学<br/>24 富山大学人間発達科学部<br/>25 金沢大学人間社会学域学校教育学類<br/>26 福井大学教育地域科学部<br/>27 信州大学教育学部</p> | <p><b>東海</b></p> <p>28 岐阜大学教育学部<br/>29 静岡大学教育学部<br/>30 愛知教育大学<br/>31 三重大学教育学部</p> <p><b>近畿</b></p> <p>32 滋賀大学教育学部<br/>33 京都教育大学<br/>34 大阪教育大学<br/>35 兵庫教育大学<br/>36 神戸大学発達科学部<br/>37 奈良教育大学<br/>38 奈良女子大学附属学校<br/>39 和歌山大学教育学部</p> <p><b>四国</b></p> <p>45 鳴門教育大学<br/>46 香川大学教育学部<br/>47 愛媛大学教育学部<br/>48 高知大学教育学部</p> <p><b>中国</b></p> <p>40 鳥取大学地域学部・附属学校部<br/>41 島根大学教育学部<br/>42 岡山大学教育学部<br/>43 広島大学教育学部・附属学校支援グループ<br/>44 山口大学教育学部</p> <p><b>九州</b></p> <p>49 福岡教育大学<br/>50 佐賀大学文化教育学部<br/>51 長崎大学教育学部<br/>52 熊本大学教育学部<br/>53 大分大学教育福祉科学部<br/>54 宮崎大学教育文化学部<br/>55 鹿児島大学教育学部<br/>56 琉球大学教育学部</p> |
|---|--|

平成26年(2014年)4月1日現在 56大学加盟

## ●資料4

新規会員各位

平成 26 年 7 月 31 日

日本教育大学協会全国美術部門委員長  
増 田 金 吾

### 日本教育大学協会全国美術部門の紹介

日本教育大学協会は、全国の国立大学法人の教員養成系大学・学部が機関加盟して組織されている団体で、相互協力や情報交換によって教員養成の質的向上と教育全般に関する学術研究の進展を図り、我が国の教育振興に永く寄与してきました。

同協会には、教科内容ごとや附属学校種別など、様々な研究部門を設けていますが、「全国美術部門」は、全国の教員養成系大学・学部の美術科全教員によって組織され、活発な研究協議を続けている部門です。

毎年1回の全国協議会開催のほか、全国9地区の地区協議会もそれぞれに開催されており、美術科教員共通の問題の、研究協議などの貴重な場として、多くの参加者を見ています。

また、「全国美術部門・会報」を年1回発行しているほか、会員名簿も編集しており、約320名の会員相互の情報交換などに活用されています。

#### ■会員について

日本教育大学協会の会員である大学・学部及び附属学校で、美術教育に関わる研究・教育を担当する教員は、日本教育大学協会全国美術部門の会員となります。

#### ■年会費について

年会費は一律一人¥3,000です。